

茶 チャノミドリヒメヨコバイについて



図1 成虫

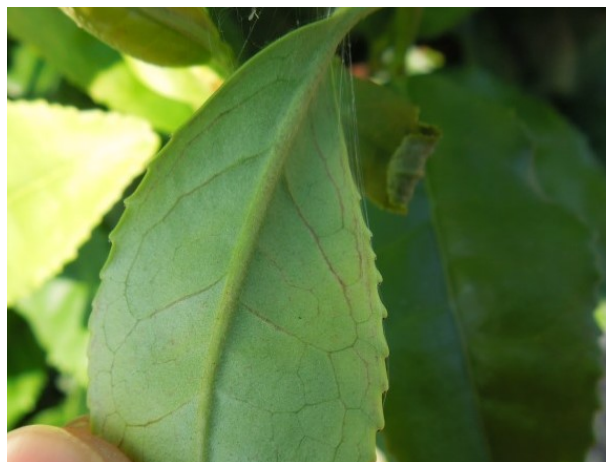


図2 加害され赤褐色に変化した葉脈



図3 加害された新梢部



図4 黒変した新葉

1 生態

チャノミドリヒメヨコバイは茶の葉を加害する害虫として古くから知られており、茶以外にもカンキツ類も加害する。成虫は体長約3mm、体色は淡緑色で前翅基部がやや黄色く、幼虫はふ化直後で体長1mm程度、成長すると2mmに達し、体色も淡黄白色から淡黄色に変化する。1世代あたりの発育所要日数が短く、年間4～8回発生する。越冬した雌成虫が4月下旬頃から活動し、5月下旬頃に第1世代成虫が発生するが、以降は様々な生育ステージが混在するようになる。ふ化から成虫までの発育所要日数は15℃では40日程度で、30℃では15日程度で成虫になる。

成虫・幼虫ともに新梢部の葉裏に生息し、展葉間もない柔らかい葉を加害する。新葉の葉脈に沿って加害し、加害部の葉脈は赤褐色になり、その周辺が脱色して黄緑色になる。その後、葉の生育は停止し、葉先や葉縁から黒変して枯れる。チャノキイロアザミウマの被害と類似するが、葉脈に沿った加害痕を作らないことから区別できる。

2 発生状況

本県では春先から晩秋まで発生がみられ、5月下旬、7月上旬、8月中旬から8月下旬に成虫の発生最盛期がみられる。一番茶生育期での被害は少ないが、5月中旬頃より成虫密度が増加し、8月中旬から下旬に最も多くなる。成虫の発生最盛期と新芽の生育期が合致すると被害が多くなるため、新芽生育期の防除を徹底する。

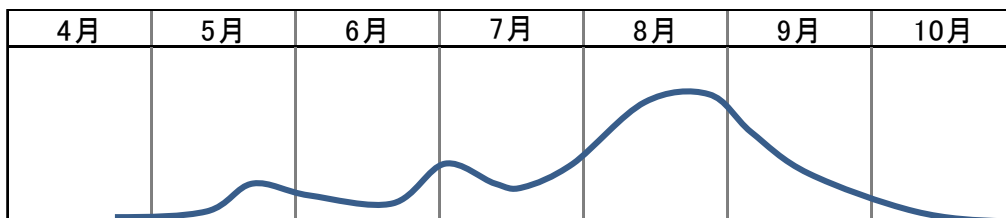


図5 チャノミドリヒメヨコバイ発生消長

3 防除対策

(1) 栽培管理

二番茶以降摘採しない園や放任園などの管理不十分な園で多発する。周辺にそのような園があると、成虫が茶芽生育期に飛来して加害するため、防除を徹底する。

(2) 適期防除

展葉まもない葉を加害するため、各茶芽の生育初期での防除を行う。葉裏に生息していることが多いため、葉裏にも薬液がかかるように注意する。また、本虫は発生回数が多く、薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。